

# 令和5年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを楽しむ児童の育成を目指す。  
○積極的に英語で発信している児童の割合 R5目標値50%

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①言語活動の充実  
※授業中の言語活動の割合

	50～100%	75～100%
R4達成値	86.8%	43.7%
前年比	▲1.0	0.5

②パフォーマンステストの実施状況  
R4達成値94.5%  
(前年比2.7)

### 未だ改善が必要な点

①小中高連携の状況  
小中連携の実施  
R4達成値89.2%  
(前年比▲7.8)

②「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用

	設定	公表	把握
R4達成値	505%	205%	44.3%
前年比	▲72	144	▲12

## 2. 分析

①授業中の言語活動の割合に大きな変化は見られないが、公開授業等での言語活動の質は高まってきた。小学校専科加配教員研修の実施や研究モデル地区の設定、目指す授業の動画配信により、改善が進んだ。

②評価の在り方への関心が高い。言語活動の充実に伴い、パフォーマンステストに関する実践が進んでいる。

①R2・3年に、市町教育委員会を含む小・中・高・大の英語教育関係者が集う英語教育推進協議会で、重点課題として取り上げた。R3年度調査で大幅な改善が見られたため、新たな課題の解決に着手したところ、意識が薄れた市町があった。

②2項目で前年比を下回っており、作成方法や活用の有効性を普及する必要がある。

## 3. 施策・事業

R5年度から「Believe You Can」英語発信力強化事業を展開する。

①先進モデル校事業（2市町小1校、中2校）  
グローバル人材の育成を目指して、異文化交流を含む先進的な取組を県内に広く発信する。オンラインや対面での定期的な異文化交流により、普段の授業における言語活動の質が高まり、言語活動の時間が増加することをねらいとする。

②アップデート研修（3年間12地区）  
パフォーマンステストによる評価を研修内容の一つに設定し、希望者を対象に実施する。指導経験の有無に関わらず実施できる授業作り及び方法等を紹介する。

①グローバル人材育成協議会（年2回）  
これまでの小・中・高・大の教育関係者の連携体制を生かして、グローバル人材の育成を目指す。小中連携を英語教育、ひいてはグローバル人材育成に資するものと位置付け、継続課題として取り扱い、定着を図る。

②アップデート研修（3年間12地区で実施）  
作成方法や活用の有効性を伝達し、普及を促進する。

【一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組】  
英語の外部試験資格を所持する受験者及び中学校教員免許を所持する受験者に加点制度を設けている。

# 令和 5 年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを楽しむ生徒の育成を目指す。

○求められる英語力を有する生徒の割合 R5目標値60% ○積極的に英語で発信している生徒の割合 R5目標値50%

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①求められる英語力を有する生徒の割合

R4達成値49.2%  
(前年比2.2)

②「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用

	設定	公表	把握
R4達成値	95.2%	500%	73.5%
前年比	1.2	26.0	23.2

### 未だ改善が必要な点

①小中高連携の状況

小中連携の実施  
R4達成値89.2%  
(前年比▲7.8)

②英語担当教師の英語使用状況

	50~100%	75~100%
R4達成値	74.2%	13.5%
前年比	▲3.0	▲0.7

## 2. 分析

①②全中学校英語教員を対象にR3年度から実施した研修が英語教員の指導力及び生徒の英語力の向上につながった。

(年2回×2年間)

【ガイダンスWeb会議】※オンライン

・学習指導要領の趣旨や本県の英語教育の現状を伝達した。

【スキルアップ研修】※対面

・全国学力・学習状況調査から見る「求められる生徒の英語力」を確認し、持ち寄りの授業動画やテスト問題に対して具体的な改善策を共有した。

・指導と評価の一体化を図るものとして「CAN-DOリスト」を取り上げ説明した。

①R2・3年に、市町教育委員会を含む小・中・高・大の英語教育関係者が集う英語教育推進協議会で、重点課題として取り上げた。R3年度調査で大幅な改善が見られたため、新たな課題の解決に着手したところ、意識が薄れた市町があった。

②県平均は前年を下回ったが全国平均(74.4%)に近い。使用状況の地域差が大きい。

## 3. 施策・事業

R5年度から「Believe You Can」英語発信力強化事業を展開する。

①②授業改善研修(年2回)

【第1回】※オンライン

・希望する学校の研究主任等を対象に、全国学力・学習状況調査(国語科・数学科・英語科)をもとに「求められる資質・能力」及び「指導のポイント」等を協議し、学校全体での授業改善に向けた取組を推進する。

【第2回】※オンライン

・希望する英語教員を対象に、全国学力・学習状況調査(英語科)の結果分析から成果と課題を確認するとともに、改善に向けた授業実践を持ち寄り、情報共有を行う。

・課題解決に向けた指導及び評価の具体的な手立てを共有することにより英語教員の指導力及び生徒の英語力の向上を目指す。

①グローバル人材育成協議会(年2回)

これまでの小・中・高・大の教育関係者の連携体制を生かして、グローバル人材の育成を目指す。小中連携を英語教育、ひいてはグローバル人材育成に資するものと位置付け、継続課題として取り扱い、定着を図る。

②先進モデル校事業等(2市町小中3校)

授業研究会等における指導助言の際に、教師の英語使用状況に触れ、生徒の英語力との相関を伝え、全市町で50%以上の英語使用を達成する。

# 令和5年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、ICT機器等を活用しながら英語の「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能をバランスよく育むとともに、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。  
○スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 R5目標値50% ○授業における、生徒の言語活動の割合 R5目標値65%

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合

R4達成値48.7%  
(前年比13.3%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況

	設定	公表	把握
R4	100%	49.3%	63.4%
前年比	0	8.5	5.5

### 未だ改善が必要な点

①スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (①参照)

② 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合

R4達成値55.8%  
(前年比3.7%、  
R4目標値65%)

## 2. 分析

①② 学校訪問やICT活用研修会、県英語教育研究大会など、機会を捉えて評価について取り上げたことで、CAN-DOリストの生徒との共有や評価における活用、また、パフォーマンステストを活用した評価や評価方法の見直しなどが各校において進んだと考えられる。

①については、前年度からの改善は見られるものの、すべての科目においてスピーキングテストとライティングテストの両方を実施しなければならないという認識が低い学校もある。

②についても、前年度から微増しているものの、目標値には到達しておらず、引き続き改善が必要である。

## 3. 施策・事業

①② 今年度も学校訪問による指導や初任者研修などの研修会において、評価についての確認や情報交換などを実施する。また、先進的な取組や好事例について情報を提供する。

### ①②

◆指導力向上研修（評価）  
外部講師を招き、パフォーマンステスト等の評価に関する講話や情報交換などを実施し、評価についての理解を深める。

◆“つながる・広がる”英語教育支援事業  
研究指定校を中心に、1人1台端末を活用して授業の中で英語を使う機会を設け、言語活動をととして生徒の英語による発信力の強化を図る。

◆ICT活用研修会  
ICTの活用状況については、どの項目も前年度から微増しており、ICT活用への意識は高まっているため、引き続き、先進的な取組等を生かした授業の普及に努め、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを推進する。